

「水環境学会誌」原著論文編執筆要領

1. 一般的注意事項

- ①原稿の本文は、日本語とする。
- ②原稿は、内容が独立して完結しているものとし、表題に「第〇報」的な通し番号は含めない。
- ③原稿概要（和文要旨）は、原稿の内容について400字以内で記述すること。
- ④英文要旨では、研究の目的、結果、および得られた重要な知見や論点をまとめること。要旨本文は、200語を超過してはならない。また、5語以内のキーワードを選び英文要旨の下部に記入すること。投稿原稿の英文題名、英文要旨およびキーワードは、校閲を実施する。原則として第1回修正原稿を対象として編集査読部会が専門家に英文校閲を依頼し、その結果を後日著者宛に送付する。なお、最終的に責任を持つのは著者であり、英文校閲結果は強制力を持つものではないが、英文校閲の結果を十分に参考にさせていただきたい。この英文校閲にかかる費用は、(社)日本水環境学会が負担する。
- ⑤本文の区分けは、以下に例示した記号を用いること。また、大見出し、中見出し、小見出しなどは、明瞭にすること。

[例]

2. 研究方法

2.1 分析方法

2.1.1 微生物学的方法

(1) 一般細菌数

(a) 培地

- ⑥句読点には“,” および“.”を用い、“、”や“.”などは用いないこと。
- ⑦本文中で使用する単位はSI単位系に従って表記することを原則とする。ただし容量単位は、リットル(L)あるいは立方メートル(m³)を用いることを原則とし、特別に必要な場合を除き、立方デシメートル(dm³)は使用しないこと。
- ⑧生物名は和名の場合カタカナを用い、学名はイタリック体にする。
- ⑨図表はタイトルや説明文を含めて英文とし、通し番号をつけること。
通し番号のつけ方 図：Fig. 1, Fig. 2, …
表：Table 1, Table 2, …
- ⑩写真は図として取り扱う。従って、扱いはすべて図に準じ、番号も図と同一の通し番号を使用する。また、図(写真を含む)は、白黒に限らない。但し、受理後の別刷は白黒印刷が標準で、カラー印刷は追加費用が必要となる。別刷料金は『「水環境学会誌」原著論文編投稿要領』を参照のこと。
- ⑪図表および写真は、刷り上り論文において一段幅いっぱい(幅約80mm)に収めることを原則とし、これが困難な場合に限り、二段幅いっぱい(幅約170mm)となることを念頭において作成すること。そのために図表が縮小された場合でも図表内の文字が小さくなり過ぎないように注意すること。
- ⑫数式は、数式エディタ等を利用して鮮明に作成すること。また、本文を改行して記述し、(1), (2), (3)・・・のように通し番号を付すこと。
- ⑬本文中で参考文献は、引用順に右肩に片かっこ(例：¹⁾, ^{1, 2)}, ^{1~5)}, ………)で示し、原稿末尾において番号順の一覧にすること。その記載方法は「3. 参考文献の記載方法」を参照すること。
- ⑭謝辞(必要な場合)、記号表(特に使用記号が多い場合に作成することが望ましい)は本文末尾の参考文献の前に記す。
- ⑮その他、表記方法についての不明な点は見本を参照し、それに準じて原稿を作成すること。見本は、本会ホームページからダウンロードできる。

2. 投稿原稿の体裁

- ①本文原稿は、表紙、和文要旨、英文要旨（キーワードを含む）、本文（謝辞、付録、記号表、参考文献を含む）および図表で構成され、表紙から通しページ番号をつけること。また、②～⑤に記された体裁となるように作成すること。なお、刷り上りページ数（2800字／ページ相当）の見積もり等の参考として、刷り上り論文の見本が本会ホームページからダウンロード可能である。
- ②表紙には、A4判1ページに表題（和文および英文の両方）、著者名、所属を記すこと。
- ③和文要旨、英文要旨および英文キーワードは、これらでA4判1ページに納まるように作成すること。
- ④本文は、A4判1ページあたり1400字程度を目安にして、マージン、文字数、行数、文字サイズを設定し、見やすく作成すること。
- ⑤図表は、本文とは別にして図表ごとにページを分けて作成し、それぞれに図表の通し番号およびタイトルを記すこと。
- ⑥本文原稿は、PDFファイルに変換する。その際、「フォントの埋め込み」を必ず行うこと。また、ファイルのセキュリティ設定は「なし」にすること。ファイル容量は、10MB以下にすること。なお、掲載決定後には、別途指示されたファイル形式の掲載用原稿を提出することになる。

3. 参考文献の記載方法

(1) 雑誌

- ① 著者名、掲載年、表題、雑誌名、巻、ページの順に記す。掲載年は（ ）書きし、表題、雑誌名、巻、ページそれぞれの間をコンマ（和文誌では全角、英文誌では半角を用いる）で区切り、最後はピリオド（体裁はコンマの場合と同じ）を付すこと。
- ② 字体は、和文誌の場合には明朝体を、英文誌の場合の学名および英文雑誌名にはイタリック体を用いること。
- ③ 雑誌名については、和文誌の場合には省略せずに記し、英文誌の場合には省略名を用いてもよい。省略方法はそれぞれの雑誌の慣用に従うこと。
- ④ 巻（Vol.）についてはボールド体を用い、ページについては原則として通巻ページを記すこと。ただし、号（No.）ごとのページのみで整理される雑誌の場合には、巻の次に号を（ ）内に記し、号ごとのページを記すこと。巻数がなく号数のみの雑誌の場合には、号のみを（ ）書きとすること。

記載例

1) 吉村孝一, 中栄篤男 (1982) 活性汚泥による直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム (LAS) の生分解性に関する研究(I)—LAS の吸着機構について, 水質汚濁研究, **5**, 27-34.

2) Kikuchi, M., Wakabayashi, M., Kojima, H. and Yoshida, T. (1980) Bioaccumulation profiles of ³⁵S-labelled sodium alkylpoly (oxyethylene) sulfates in carp (*Cyprinus carpio*), *Water Research*, **14**, 1541-1548.

(2) 単行本

- ① 著者（编者）名、発行年、書名、ページ、発行所、発行場所（都市名）の順に記す。発行年は（ ）書きし、書名、ページ、発行所、発行場所それぞれの間をコンマ（和文誌では全角、英文誌では半角を用いる）で区切り、最後はピリオド（体裁はコンマの場合と同じ）を付すこと。字体については(1)の②に準ずること。
- ② 書籍の一部の章等を参考文献とする場合には、章等の著者名、発行年、章等の表題、書名（和文書籍「」書き、英文書籍“in ” ”書き）、编者名（和英文書籍ともに“()”書き）、ページ、発行所、発行場所の順とすること。
- ③ ページの表記は、1冊すべてを引用する場合には“○○pp.”、一部分の場合には“pp.○-○”の表現を用いること。

記載例

- 1) Fogg, G. E. (1975) Algal Cultures and Phytoplankton Ecology, 2nd Ed., 175pp., Univ. of Wisconsin Press, Madison, Wisconsin.
 - 2) 合田 健 (1975) 水質工学 (基礎編), 150pp., 丸善, 東京.
 - 3) Bierman, V. J. Jr. (1976) Mathematical model of the selective enhancement of blue-green algae by nutrient enrichment, in "Modeling Biochemical Processes in Aquatic Ecosystems" (Ed. Canale, R. P.), pp.1-29, Ann Arbor Science, Ann Arbor.
 - 4) 坂本 充 (1982) § 3 湖沼の富栄養化, 「湖沼環境調査指針」(社団法人日本水質汚濁研究協会編), pp.11-13, 公害対策技術同友会, 東京.
- (3) ウェブページ

- ① 著者(编者)名, 作成年(不明の場合は省略可), ページ名, URL, 確認年月の順に記すこと。作成年および確認年月は()書きとする。確認年月は原稿執筆時の直近とし, “○年○月時点”の表現を用いること。また, ページ名, URL それぞれの間をコンマで区切り, 最後はピリオド(体裁はコンマの場合と同じ)を付すこと。

記載例

- 1) U.S.EPA (2007) EPI Suite, Version 3.20, <http://www.epa.gov/opptintr/exposure/pubs/episuite.htm> (2008 年 10 月時点).
- 2) 農林水産省動物医薬品検査所 (2008) 動物用医薬品等データベース, http://www.nval.go.jp/asp/asp_dbDR_idx.asp (2008 年 10 月時点)

(平成 21 年 2 月 9 日制定)

(平成 22 年 3 月 24 日改正)